

日本株ファンドマネージャーの視点

「新成長株」に投資して大化け銘柄を発掘しよう！

※このレポートでは、日本株ファンドマネージャーが注目しているトピックや銘柄などを毎週お届けします。

8月から9月にかけて、毎週のように株価が短期間に倍になるような大化け銘柄がポートフォリオに組み入れられていました。個々の銘柄を見ると、業種も異なり単なる偶然のように見えますが、銘柄選択をしたファンドマネージャーとしては、実はある意図を持って組み入れた銘柄群です。

	A社	B社	C社	D社	E社
セクター	機械	電気機器	情報通信	輸送用機器	その他製品
組入理由	内需の設備投資需要の反転	割安なバリュエーションと新商品	割安なバリュエーションと利益成長力	自動車ランプの付加価値増大	海外でのブランド力と高シェア
株価上昇理由	画期的な金属系3Dプリンタの発売	水を入れるだけで充電できる次世代電池の開発	建築分野のBIM関連ソフトへの市場の注目	自動運転関連の新製品の発表	良好な第一四半期の利益と日本人テニスプレーヤーの活躍
組入時PBR	0.4倍台	1.3倍台	1.3倍台	0.8倍台	0.4倍台
組入時PER	9倍台	9倍台	9倍台	8倍台	9倍台

これらの銘柄に共通しているのは、組み入れ時点では表のとおり激安バリュー株だったということです。そしてもう一つ共通している点は、今年の1月から6月の間に会社訪問を行ってリサーチをし、将来の市場と収益の変化を期待して組み入れた銘柄だということです。つまり投資理由が激安バリューに注目するのではなく、今後の平均利益成長率の高いことを期待した割安成長株投資だということです。

日本の株式市場で、株価が急騰する銘柄の特徴は何でしょうか。すぐに思いつくのはスマートフォンゲーム関連の銘柄です。スマートフォン上でゲームランキングが公開されているので、今現在の人気株は容易に想像できます。業績はまだ出ていないのですが業績が改善方向にあることは容易に想像がつくため、個人やグロース株を好む運用担当者が積極的に投資し、買いが買いを呼ぶ展開になる銘柄群です。ただ私から見ると、5年という長期成長力には疑問を感じさせる銘柄が大半です。ゲーム関連株の5年後を予想するのは極めて難しく持続性に欠けるため、私の場合は成長株でなく、バリュー株としてしか投資を行いません。

一方、最近急騰した表の5銘柄は、株価上昇前はグロース株マネージャーが好むような銘柄ではありませんでした。誰も注目しないバリュー株でした。ただ長い苦戦の後、業績が改善傾向にあったことと、バリュエーションが激安以上に商品力などに少し気になることがあったため、会社訪問をして長期保有を前提に投資した企業でした。そして会社訪問できらりと光るものを確認し、成長株として投資をしたのです。このような組み入れ時点では見た目がバリュー株でも、将来的に市場や企業自体が変化する可能性があるものを、私は「新成長株」と呼んで明確な意図を持って投資しています。これらは、不人気株であるため他の機関投資家の保有が極めて少なく、最近これらの銘柄の上昇を享受できたことは運用成績として大きなアドバンテージになりました。

今回、これらの銘柄が大幅上昇したのは、背景としてマーケットが安定していたことです。そこにテーマが乗っかり、バリュエーションが切りあがりました。これは市場の見方が、バリュー株からグロース株に変貌したということです。私はここに大化け銘柄を効率的に獲得する秘訣があると思います。皆が知っているグロース株は自分が買う頃にはそれなりに上昇しており、実は上昇という果実を丸々獲得できることは少ないのです。

一方、大化けする「新成長株」は組み入れ時点では割安なため、何かあれば急騰しても簡単には割高に見えません。また割安で誰も興味のないうちに会社訪問で本源的な価値を理解し期待しているので、ちょっとした上昇では売らず、大きな上昇をドンとかまえて享受できます。

急騰した1銘柄1銘柄を保有していたのは「偶然」ですが、ポートフォリオで保有していたのは運用哲学から来る「必然」なのです。大化け銘柄を発掘するには、地道な努力とその積み重ね、市場のトレンドに流されない精神力が重要だと改めて感じました。

株式運用部
永田 芳樹

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在のものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。



大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

大和住銀投信投資顧問株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第353号
加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会